

PRESS RELEASE

2025年3月3日

株式会社インターネットイニシアティブ

IIJ、プロキシサーバ利用のネットワーク構成でもローカルブレイクアウトを実現する機能を提供

-- 自社でプロキシサーバを利用する場合も、煩雑な宛先更新作業なくローカルブレイクアウトを実現 --

当社は、お客様が自社のネットワーク内部でプロキシサーバを利用するネットワーク構成においても、Microsoft 365 や Google Workspace など特定 SaaS への通信のローカルブレイクアウト※1)を可能にする機能を開発し、本日より提供開始いたします。

本機能は、クラウド上で各種 SaaS への通信を自動的に最適な経路に振り分ける「IIJ クラウドプロキシサービス」と、各種 SaaS の宛先情報を収集してお客様の拠点にあるネットワーク機器に自動配信する「IIJ クラウドナビゲーションデータベース」を連携させることで、煩雑な宛先更新作業なく、ローカルブレイクアウトを実現します。具体的には、「IIJ クラウドプロキシサービス/クラウドナビゲーションデータベース連携 PAC」と「IIJ クラウドナビゲーションデータベース/PAC ファイル API」※2)として提供します。

※1)ローカルブレイクアウト:特定のクラウドサービス宛の通信について、データセンターなどのインターネットゲートウェイを経由せずに各拠点のインターネット回線から直接アクセスする機能。

※2)PAC ファイル: Web ブラウザの動作を指定する設定ファイルの一つで、Web サイトや SaaS にアクセスするために経由するプロキシサーバを指定するためのもの。

背景

近年、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を背景に SaaS 利用が拡大してクラウドサービス向けトラフィックが増大し、企業ネットワークの輻輳による通信遅延が多くの企業で課題になっています。当社はこのような課題を解決するため、クラウド上でプロキシサーバを提供し、各種 SaaS への通信を自動的に最適な経路に振り分けて負荷分散を図る「IIJ クラウドプロキシサービス」、および Microsoft 365 や Google Workspace など予告なく宛先情報が変更される SaaS の宛先情報を自動収集し、IIJ の SD-WAN サービスと連携してローカルブレイクアウトを実現する「IIJ クラウドナビゲーションデータベース」を提供し、増え続ける SaaS トラフィックの負荷分散に対応するソリューションを提供しています。

しかしながら、お客様が自社ネットワーク内でプロキシサーバを利用している場合、IIJ が提供するサービスアダプタ(ルータ)にて特定 SaaS の通信を拠点から直接アクセスするよう設定(ブレイクアウト)しても、お客様端末のプロキシ設定が優先されるため、自社のプロキシサーバを経由して特定 SaaS にアクセスすることになり、社内ネットワークの負荷分散にはなりません。また、自力で運用する場合も頻繁に変更される SaaS の宛先情報を手動で PAC ファイルなどに反映して除外設定する必要があり、ローカルブレイクアウトの実現は困難でした。

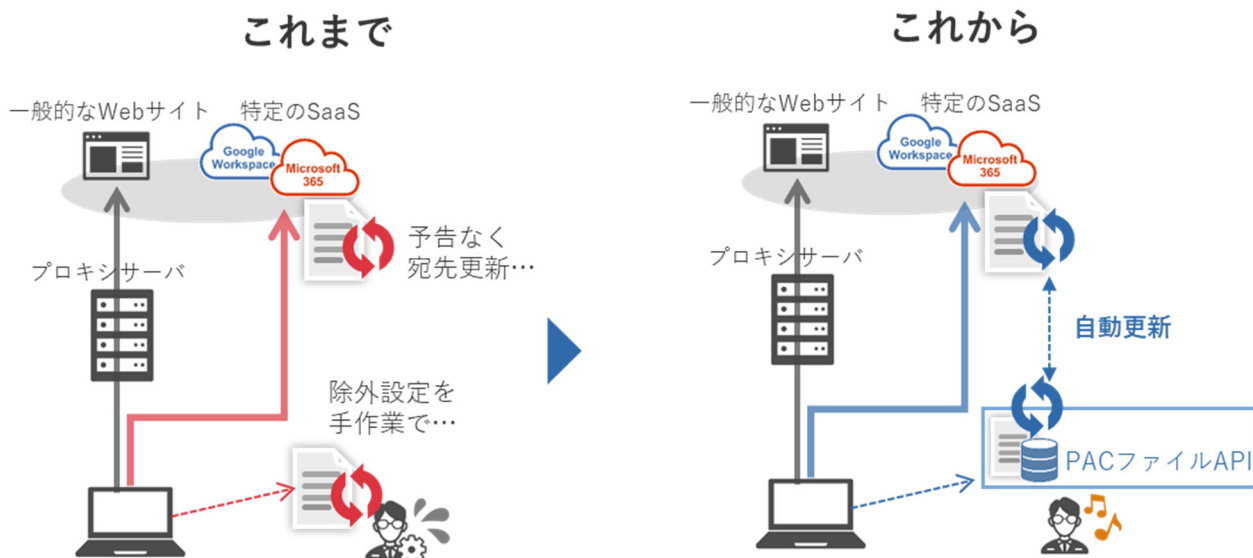
このような状況に対応するため今回、「IIJ クラウドプロキシサービス」と「IIJ クラウドナビゲーションデータベース」を連携させ、SaaS の最新の宛先情報を自動で追従し、プロキシ除外対象として更新される PAC ファイルの提供を開始します。これにより、自社でプロキシサーバを利用している場合においても、宛先更新作業の負荷なくローカルブレイクアウトが可能になります。

機能特徴

- ・ Microsoft 365 や Google Workspace、Windows Update などの接続先において、予告なく変更されるホスト名情報(FQDN)や IP アドレス情報を、プロキシサーバを経由しないよう除外対象として指定し、対象 SaaS の宛先が自動で最新のものへ更新される PAC ファイルを提供します。

- 特定の SaaS に対して、利用者が拠点から直接通信を行うことで、社内ネットワーク設備の負荷を軽減します。また、ローカルブレイクアウトの対象を信頼できる SaaS のみに限定し、その他の宛先の通信はプロキシサーバを経由させることで、セキュリティレベルを確保することが可能です。

提供イメージ



各サービスの詳細については、以下サイトをご覧ください。

- IIJ クラウドプロキシサービス <https://www.ij.ad.jp/biz/cloud-proxy/>
- IIJ クラウドナビゲーションデータベース <https://www.ij.ad.jp/biz/cloud-nav/>

IIJ では今後とも、お客様のネットワーク運用を最適化する機能の開発を進めてまいります。

(参考資料)

「プロキシ環境でもローカルブレイクアウトはできる！ IIJ がリリースした”新たな選択肢”を徹底解説」
<https://ent.ij.ad.jp/articles/8970/>

■ エンドースメント

サンデン・リテールシステム株式会社は、株式会社インターネットイニシアティブによる「IIJ クラウドプロキシサービス/クラウドナビゲーションデータベース連携 PAC」、「IIJ クラウドナビゲーションデータベース/PAC ファイル API」のリリースを心より歓迎いたします。弊社は、ネットワークやセキュリティ領域を中心に IIJ サービスを採用しております。本サービスリリースは年々増加するクラウドトラフィックの増大への対応に有効な一手と考えており、導入を予定しております。弊社の DX をより加速させる今後の有力な選択肢となるものと大いに期待をしております。

サンデン・リテールシステム株式会社
 常務執行役員 IT 本部長
 大木 哲秀

報道関係お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報部 荒井、増田

TEL:03-5205-6310 FAX:03-5205-6377

E-mail: press@ij.ad.jp URL: <https://www.ij.ad.jp/>

※本プレスリリースに記載されている社名、サービス名などは、各社の商標あるいは登録商標です。